

2020年度事業計画（案）

（2020年1月1日～12月31日）

法人名称 NPO 法人 教育支援グループ Ed.ベンチャー

1. 事業活動方針

－「世界」と「足元」を結ぶ意志－

今、きしみ始めた世界のあちらこちらから、悲鳴が聞こえ始めています。冷戦の終結と共に世界を覆い尽くした自由主義経済は、金融経済の肥大化と、多国籍企業の専有化を招き、持てるものと持たざるものの格差は、埋められないほどに広がり、「経済発展は全ての人を豊かにする」という言葉は、もろくも幻想に潰れました。飢餓やテロ、環境破壊への恐怖はますます増大し、世界のあちこちで民族対立や宗教対立、そして「国益」を優先する国家間の対立は戦争を生み出しています。

（しかし、残念ながら、私たちにそれらをすぐに修正できる力はありません・・・）それでも、もし私たちにできることがあるのだとしたら、私たちの生活の足元で、教育支援グループとして子どもたちの声を聞き、志を同じくする仲間と共に学び、少しでも行動を起こしていくことではないでしょうか。既成の観念を自ら脱ぎ捨て、今できることを、今できる仲間と共に始めていくことではないでしょうか。

私たちが聞くべき声は、声高に叫ぶ政治家の言葉でもなく、甘い大企業の宣伝文句ではありません。毎日の学校生活で困っている子どもたち、言葉の通じない日本で途方に暮れている外国人の子どもたち、障がいによって手助けを必要としている子どもたち・・・なのです。そうした弱い立場の子どもたちの声をしっかり聞き取ることが、私たちがやるべきことを明確にしてくれるに違いありません。そしてまた、そうした子どもたちの声を聞き取るとは、世界の裏側にいる子どもたちの声へとつながることだと信じます。

昨年度の成果の中で、多くの課題が整理されました。大事なことは、過去の継続としての今ではなく、未来を作り出す起点としての今を獲得しようとするかどうかなのです。

そしてもう一つ。今年度特に忘れてはならないのが、戦後75年という節目を迎える年であるということです。今年の夏、オリパラによって、戦後4分の3世紀を経た今をどう考えるのかという声は、きつとかすんでしまうことでしょう。しかし、現在の日本は、敗戦の1945年に民主国家として生まれ、悲惨な歴史を乗り越え、恒久平和を望む国家として歩んで来たことは確かです。戦争体験者の多くはすでに亡くなり、当時のことを伝える方も少なくなる中、平和への願いは守られていくのでしょうか。懐疑的な目で現在の社会を見ざるを得ません。世界は急速に軍拡の道を歩んでいます。日本はこれから、どの道を歩むべきなのでしょう。ここにも、足元から世界へつながるテーマが広がっています。

以上から、次の3点を2020年度の活動方針とします。

- ① 世界の視点を持って私たち自身の足元を見つめ、世界の動向を視野に入れつつ、足元の活動に取り組む。
- ② 「個人」の思いを組織としてより大切にし、その思いを活動に結びつける。
- ③ 会員内だけでなく、会員でない人たちにも積極的に発信していく。

1. 事業内容

学校支援事業 ①理論学習会

事業概要	<p>本学習会で「教育と貧困、弱者」をテーマに学習をすすめる中で、社会において貧困の中におかれている人は、経済的な貧困のみならず、人間関係における孤立、情報量の少なさ、公的機関とのつながりにくさなど、様々な困難を抱えているという現実を知った。孤立しており、様々なつながりが必要な人ほど、つながることが難しい現状がある。</p> <p>これらのことをふまえ、今年度は、人や制度、機関との「つながり」をもつために、義務教育の中でできることは何か、その実践方法を模索していきたい。学級集団を捉え、子どもたちにとって必要なつながりとは何かを考え、実践報告や事例検討からその方法を見つけていきたい。また、学校と地域との連帯へと視野を広げた学習会を設定し、子どもたちの10年後、20年後を考え、どのような力を子どもたちにつけることが必要かという点についても考えていきたい。</p> <p>今年度は担当者の都合で開催回数を少なくするが、多くの人に来てもらえるよう幅広く告知をしていき、多くの学校現場で子どもに寄り添った実践が増えるような学習会を展開していきたい。</p>
事業目標	教育現場の課題を捉え、教員として、いろいろな背景を持つ子どもや弱い立場に置かれる子どもが「つながり」を持てることを目的とした学習会を行う。
担当者	<p>○活動代表（理事） 清水美希 馬場有希</p> <p>○スタッフ 根岸知世</p>
開催日時	<p>原則第1 水曜日 19:00～21:00</p> <p>5月13日（水） 講演「学級づくり～子どもが育つ集団をつくる～」 講師：清水睦美氏（日本女子大学教授）</p> <p>6月6日（土） 実践報告会「支援が必要な子・弱い立場の子どもと周りの子をつなげる実践」報告：小学校教員</p> <p>10月7日（水） 講演「保護司が会おう子どもたち」（仮） 講師：保護司（大和市）</p> <p>11月4日（水） 事例検討会「人と制度、機関をつなげる実践」（仮） 講師：今井 伸氏（十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科教授）</p>
場所	大和市シリウス 610
対象者	教員・学生・一般
収入予定金額	40,000円（参加費）
支出予定金額	42,111円（賃借料6,400円、諸謝金33,411円、印刷製本費300円、消耗品費2,000円）

学校支援事業 ②授業研究会

事業概要	<p>教室という空間の中で、教師や児童が生き生きと学習し合うことを実現するにはどうしたらいいのか？ありきたりの問いのようだが、今、再び問い直す必要を感じる。十分な授業研究の時間が確保されていない教員の現実の中で、それでも尚、子どもたちが様々な興味を触発されるような時間と空間を創造することはできるのか？限られた時間の中でちょっとした工夫やアイデアで少しでも学習する喜びを創り出すことは、できないだろうか？</p> <p>子どもたちは、それぞれの生活背景を背負って（背負わされて）教室に存在している。それらの課題は、3、40年昔よりも深刻化しているように思われる。そういう子どもたちを前に、かつてのような教育形態では、にっちもさっちもいかない光景があちこちに見られている時、様々な課題を持つ児童ひとりひとりがクラスの中に位置づくような授業はどうすれば可能なのか？</p> <p>教師と児童の関係の問い直し、学習内容、学習方法、学習形態、教材内容などを研究しあい、充実した時間を教室に生み出すために活発な意見交換ができるような研究会にしていきたい。</p> <p>また、そのネットワークの中で日頃の教育活動の悩みなども相談し合えるようにしたい。</p>
事業目標	ひとりひとりが位置づく学習空間と時間の創出をめざす
担当者	○活動代表（理事） 内藤順子
開催日時	<p>○定例会 4、6、8、10、12月第3木曜日 19:00～20:30</p> <p>① 4月16日（木）「教師は伝達者ではなくいかにして媒介者たりうるか」</p> <p>② 6月18日（木）「同一空間の中で、発達に応じた課題と自発的な学習の組織化は可能か」</p> <p>③ 8月20日（木）「体験的な学習の意義を実践的に明らかにしよう」</p> <p>④ 10月15日（木）「表現する喜びを生み出すためのアイデアとは」</p> <p>⑤ 12月17日（木）「子どもたちは発見すること、考えることが大好き！」を掘り起こす教材の工夫 ～教科書を生かしつつ教科書を乗り越えて～</p> <p>必要に応じて随時</p>
場所	大和市ポラリス
対象者	教育関係者・学生・一般
収入予定金額	15,000円（参加費）
支出予定金額	13,000円（賃借料8,000円、消耗品費5,000円）

学校支援事業 ③スタディツアー

事業概要	<p>スタディツアーでは、この2年間、社会的養護の施設を訪問した。訪問を通じ感じたことは、子どもに関わる課題を、その家族だけで担うのではなく、社会全体で引き受け、子どもたちを育てていかなければならないということ、そのためには、社会的養護の施設のそれぞれが果たす役割の違いを知らなければならぬということである。</p> <p>そこで、今年度は綾瀬市にある児童養護施設「唐池学園」を訪問する。児童養護施設とは、社会的養護の施設の1つであり、保護者がいない子ども（2歳からおおむね18歳）や家族による養育が困難な子どもに対し、安定した生活する場を整え、生活指導、学習指導、家庭環境の調整などを行いつつ養育を行い、子どもたちの心身の成長とその自立を支援する機能を持った施設である。近年、虐待を受けた子ども、何らかの障がいを持つ子どもの入所する割合が増えている。訪問を通して、入所している子どもたちや退所後の自立の実情を知り、「教育」の立場で何ができるのかを考える。また虐待や障がいについて、対応の在り方を学ぶ場とする。併設する乳児院「ドルカスベビーホーム」、障害者支援施設「貴志園」も訪問する。</p>
事業目標	今日の教育課題や社会状況の現場を実際に訪れることで、日常の課題を広い視野から考えることができるようにする。
担当者	○活動代表（理事） 池田喬
開催日時	事前学習会 10月 スタディツアー11月14日（土）
場所	事前学習会 大和市シリウス スタディツアー 児童養護施設「唐池学園」 乳児院「ドルカスベビーホーム」 障害者支援施設「貴志園」
対象者	教員・一般・学生
収入予定金額	10,000円（参加費）
支出予定金額	11,937円（賃借料800円、諸謝金11,137円）

学校支援事業 ④産休・育休・働くママ・パパのための学習会

* 今年度は、担当者の出産が控えているため、1年間活動を休止します。

学校支援事業 ⑤ 外国人の子ども理解のための学習会

事業概要	<p>大和市には、数多くの外国にルーツを持つ子どもたちが暮らしている。しかし、来日経緯や家庭の状況、普段子どもたちが置かれている環境を知る機会は極めて少なく、外国人の子どもたちへの理解や対応は十分とはいえない。そこで、例年教員や市民を対象に集中講座を企画しているが、今年度はより具体的に焦点を絞った学習会となるよう、以下の3事業を行うこととした。</p> <p>① 専門的な知識を学ぶための講座。 例年3月と8月に2日間の集中講座を開催してきたが、今年度はテーマを絞って開催する。</p> <p>② 国際教室の役割、担任の役割を学ぶための学習会。 例年4月に国際教室担当者向けに開催している学習会だが、今年度はすべての教員を対象とし、一人ひとりの教員が国際教室をどう捉えるべきか、担任としてどう動くべきかを学ぶための学習会を開催する。 資料として当法人が作成した『国際教室担当マニュアル』を使用する。</p> <p>③ 事例研究会 昨年秋に新たに教育相談事業で立ち上げた事例研究会を、今年度は本事業が引き受けることとした。身近な子どもたちの事例をあげて意見交換を行うことで、より具体的に外国人の子どもの生きづらさや学校の課題を探っていく。</p>
事業目標	外国人の子どもの現状や課題を理解する場、外国人の子どもに関する専門的な知識を学ぶ場を企画運営する。
担当者	<p>○活動代表（理事）西岡歩</p> <p>○スタッフ 篠原弘美 神戸芳子</p>
開催日時	<p>① 3/27(金) 15:30～17:30 大和市シリウス 612 講座「ビザ・在留資格を知る」 講師：清水睦美（日本女子大学教授）</p> <p>8/ 3(月) 13:30～17:30 大和市シリウス 講座「ルーツ別の来日の経緯を知る」 「セミリングルを知る」 講師：清水睦美（日本女子大学教授）</p> <p>② 4/22(水) 19:00～21:00 大和市ポラリス第3会議室 学習会「国際教室って何をするとところ？」</p> <p>③ 月1回程度</p>
場所	大和市シリウス、大和市ポラリス、大和市ベテルギウス等
対象者	教員・一般・学生
収入予定金額	41,700円（参加費）
支出予定金額	35,474円（賃借料9,700円、諸謝金22,274円、印刷製本費3,500円）

学校支援事業 ⑥インクルーシブな社会を目指す学習会

事業概要	<p>3年間の「特別支援教育に関する学習会」の事業の成果は、学校現場における“特別支援”が“個別支援”という理解となっている現状に気付いたことだった。目の前の児童・生徒に対して、「その子の能力(できること)を伸ばす」「その子がクラス(社会)に入れるように支援する」という表現そのものが、“個別の課題の解決”に主眼が置かれ、児童・生徒を取り巻く環境や社会への理解と働きかけを無視したものになってしまっている。</p> <p>本事業では、児童・生徒の抱える様々な困難・課題を、個人の課題としてとらえるのではなく、集団・社会の課題と理解することで、困難や課題を抱える当事者が変わる解決よりは、当事者を取り巻く集団や個人が変わる解決を目指していきたい。この目的に照らして、これまでの“特別支援教育のための学習会”から“インクルーシブな社会を目指す学習会”へと事業の名称を変更することとする。</p> <p>具体的には、①世界レベルで目指されている“インクルーシブ教育”の理念やその興り、その歴史的背景を学習すること、②これらと日本の学校で進められる特別支援教育の実態を比較しつつ検討することを行いたい。</p> <p>これらを通して、“インクルーシブな社会とは何か”、“インクルーシブな社会の実現”へと、考える範囲を広げる学習会を目指していきたい。</p>
事業目標	<p>①インクルーシブ社会を目指す教育のあり方への理解を深める。 ②学校現場でのインクルーシブな教育の実現の可能性を探る。</p>
担当者	<p>○活動代表(理事) 森尾宙 ○スタッフ 清水睦美</p>
開催日時	<p>3月27日(金) 17:30～19:30 大和市シリウス612 学習会：小学校現場で障がい児が被る差別・偏見の姿 (日本女子大学人間社会学教育学科4年 横山青空氏 卒論報告) 5月27日(水) 読書会：「青い芝」の運動に学ぶ(図書選定中) 6月24日(水) 二羽泰子企画学習会① 「合理的配慮と多様な子どもたちの学級づくり ージレンマを乗り越えるためにー」 9月2日(水) 二羽泰子企画学習会② 「世界のインクルーシブ教育 ー欧米からアフリカまでー」 10月14日(水) 清水睦美企画学習会 「進む“心理主義化” ー特別支援教育とインクルーシブ教育の違いー」 12月9日(水) インクルーシブなクラスづくり 事例研究 ～生徒の実感としてのインクルーシブ～</p>
場所	大和市シリウス 大和市ベテルギウス
対象者	教育関係者

収入予定金額	30,000 円（参加費）
支出予定金額	30,674 円（賃借料 6,400 円、諸謝金 22,274 円、消耗品費 2,000 円）

外国人支援事業

⑦子どもの居場所・学習支援教室（エステレージャ・ハッピー教室）

事業概要	<p>小学生、中学生の外国にルーツのある児童生徒を対象に学習支援を行いながら、子どもに何らかの困難や課題が見られる場合には、その背景にあるものを探り、必要であれば関係機関との橋渡しを行うなど、子どもに寄り添った支援を行う。</p> <p>① 子どもたちへの対応をきめ細かく行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録制（登録料 1 か月 100 円を徴収） ・3 学期制（1 学期 4～8 月 2 学期 9～12 月 3 学期 1 月～3 月） ・保護者面談期間を設け、保護者との面談を行う（各学期末 1 回） <p>② 母語教室の開催（英語、スペイン語）</p> <p>③ 学生スタッフの育成（ミーティングの充実、母語教室）</p>
事業目標	<p>外国にルーツのある子ども同士のつながりを深めることを意識して、学習支援を行う。また学習だけではなく、家庭や学校の話や丁寧聞きながら、子ども同士がお互いの考えを交換できる時間を作りながら支援をする。</p> <p>〈小学生教室〉</p> <p>教科学習支援として、宿題の他、国語・算数を中心に学年ごとの習得すべき内容の教材を用意して学習の支援を行う。学習内容の理解を深めていけるよう、丁寧な説明を加えながら学習を進めていく。漢字を楽しみながら学習したり、工作など体験的な学習をしたりしながら集団の中で学ぶ時間を定期的に設ける。</p> <p>〈中学生〉中学生に対しても、丁寧な説明を加えながら学習を進め、学習内容の理解を深めていく。普段の学習支援の他、定期テストや高校受験支援も行う。定期テスト前にはテスト対策の学習会を、中 3 生には受験対策学習会を準備する。また、中 2 生には進路学習会を実施し、先輩の経験から学ぶ機会を持ち、早くから将来についての計画を持てるような時間を作る。</p> <p>〈母語教室〉</p> <p>子どもたちの母語の維持、獲得のために、母語話者スタッフによる母語教室を定期的に開催する。学習計画は、母語話者スタッフとともに関係スタッフが一緒に考えていく。</p>
担当者	<p>○活動代表（理事）篠原弘美 馬場貴司 福島聖子</p> <p>○スタッフ 角替弘規 保坂克洋 高島奈美恵 清島光 根岸佐織 井上哲夫 横矢玄 中川恵理 相模女子大学ボランティアサークル「ミント」</p>
開催日時	毎週土曜日 10：30～12：30

	定期テスト対策学習会 平日週1回 17:00~19:00 中3受験対策学習会 12月下旬2日間 個別対応 随時
場所	林間小学校 大和市ポラリス 大和市ベテルギウス 保健福祉センター等
対象者	主に大和市在住の外国にルーツのある児童生徒
収入予定金額	220,400円（県中央労福協共済金 200,000円、参加費 20,400円）
支出予定金額	486,091円（給与手当 163,488円、賃借料 79,500円、諸謝金 56,793円、印刷製本費 5,000円、旅費交通費 50,010円、消耗品費 121,000円、保険料 10,300円）

子ども支援事業 ⑧愛川学習支援 Friends☆Star 教室

事業概要	2019年の事業を引き継ぎ、子どもたちのルーツを意識するためのスペイン語教室を月2回開催し、ボランティアコーディネーターの育成とともに、不適応が心配される生徒の支援を行う。
事業目標	ボランティアコーディネーターを育成する。 定期開催に向けてスタッフを確保する。
担当者	○活動代表（理事）清水睦美 ○スタッフ 角替弘規 清島光 武内敏子
開催日時	第1・3水曜日 18:00~20:00
場所	愛川レディースプラザ
対象者	ボランティアコーディネーター 長畑ハルミ 2016-18年度の愛川町での委託事業に参加していたスペイン語圏の中学生
収入予定金額	0円
支出予定金額	97,464円（諸謝金 80,184円、旅費交通費 17,280円）

普及啓発事業 ⑨教育相談

事業概要	学校・教師・行政・子ども・保護者・外国人当事者・支援団体等の各種相談に応じることを目的とした本事業は、今年度、以下の事業を行うこととする。 ①（2016年より継続）エステレージャ・ハッピー教室の運営相談 ②（2019年より継続）「すたんどばいみー基金」から移管された当事者相談事業 ③（2019年より継続）「保証人事業」より移管された当事者相談事業 ④ 多言語若手通訳派遣事業 a.通訳登録 b.通訳派遣
------	--

	c.通訳ブラッシュアップのための母国語教室 ⑤ (2019年より継続) 外国籍母子の生活支援 ⑥ (2019年より継続) 中学生外国籍母子 a.中学生支援 b.母親支援 c.学校や関係機関の調整 ⑦ 上記継続相談に加えて必要に応じて新規相談を受け付ける。
事業目標	相談事業を通して、ニーズの把握と必要な事業の展開の仕方を検討する。
担当者	○活動代表(理事) 松永雅文 ○スタッフ 神戸芳子 篠原弘美 清水睦美 林幹也
開催日時	① 月1回程度 ② 該当者5名(G、T、S、E、R)に対して月1回程度 ③ 年1回 ④ a.登録予定言語:スペイン語・カンボジア語・ベトナム語・タガログ語 b.通訳依頼に応じて適宜 c.当面の間、ベトナム語、月2回 ⑤ 適宜 ⑥ a.中学生支援 週2回(大学生派遣) b.母親支援 月1回程度 c.必要に応じて ⑦ 依頼に応じて
場所	① - ⑦の必要に応じて適宜
対象者	相談者
収入予定金額	50,000円(歳末助け合い分配金50,000円)
支出予定金額	261,360円(諸謝金111,360円、旅費交通費30,000円、消耗品費72,000円、雑費48,000円)

普及啓発事業 ⑩学校・子ども及び外国人支援に関する普及啓発事業

事業概要	学校支援、外国人支援、子ども支援の必要性を広く市民に呼びかけるための活動を9部門に分けて展開する。 ① 教育講演会(2020)の開催及び教育講演会(2021)の準備 ② 広報誌「Ed. ベンだより」の作成と配布 ③ ホームページの更新・管理・運営 ④ 2020年度版パンフレットの作成と配布 ⑤ 15周年記念誌の作成準備 ⑥ 資料・書籍の管理販売 ⑦ 他機関・他団体等との関係構築
------	---

	⑧ 渉外（研究者対応を含む） ⑨ 会員に対する情報提供
担当者	○活動代表（理事）角替弘規 ○スタッフ 池田喬 清水睦美 前田拓郎
開催日時	① 教育講演会(2020)：2月24日(月) 教育講演会(2021)の準備：7月頃～ ② Ed. ベンダより発行：2、4、6、8、10、12月(年6回) ③ ホームページ公開(随時更新) ④ 2020年度版パンフレット配布：4月上旬 ⑤ 過去の教育講演会の要約作成：8月末原稿集約 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨は随時
場所	当法人事務所
対象者	① ② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧一般、⑤ ⑨会員
収入予定金額	97,040円（参加費）
支出予定金額	354,551円（賃借料7,400円、諸謝金33,411円、印刷製本費76,000円、会議費31,100円、旅費交通費10,000円、通信運搬費64,200円、消耗品費87,040円、業務委託費40,000円、修繕費5,400円）

⑪ 法人の事業円滑実施のための活動

事業概要	法人の事業円滑実施のために、次の3部門の活動を行う。 ① 総会・活動報告会・事務所管理等の事務 ② 会計 ③ 東日本大震災支援・反原発関連活動
事業目標	法人の事業を円滑に実施するために活動する。
担当者	○活動代表（理事）神戸芳子 武内敏子 ○スタッフ 池田喬 清水睦美 篠原弘美 内藤順子 (会計) 篠原弘美 清水睦美 神戸芳子 小西永里子 (震災関連) 清水睦美
開催日時	① 事務局会議：原則月1回 活動報告会：原則奇数月、会計年度末臨時（合計9回） 総会：2020年2月24日(月)10:30～11:30 大和市シリウス ② 会計処理：月1回 会計確認：年3回(1月、6月、10月) 会計監査：年1回(2月) ③ 必要に応じて対応
場所	当法人事務所、部室、大和市ベテルギウス会議室
対象者	法人内会員

収入予定金額	796,000 円 (会費 660,000 円、寄付金 100,000 円、雑収入 36,000 円)
支出予定金額	308,580 円 (賃借料 6,000 円、通信運搬費 117,700 円、印刷製本費 20,000 円、消耗品費 10,000 円、水道光熱費 39,600 円、保険料 3,570 円、租税公課 18,300 円、諸会費 5,000 円、雑費 88.410 円)